



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第96号
平成28年4・5月号

『杭州日本人学校9年目のスタート！』

校庭の桜の花も美しく咲き誇り、元気に躍動する杭州っ子たちにも、春の息吹を感じるすばらしい季節がやってきました。

平成20年（2008年）4月18日に開校して、9年目（創立8周年）のスタートを切ることができました。

保護者の皆様には、日頃より本校の教育振興に対して深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

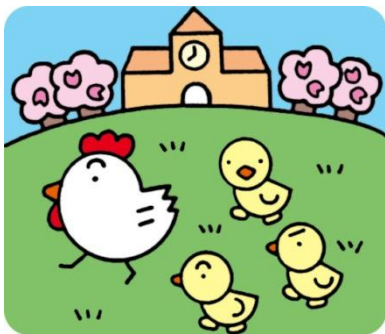
私たち教職員は、大切なお子さまの安全・安心を守る学校づくりと健やかな体と心を育み、学力向上をめざして毎日の教育に取り組んでまいります。



この学校便り「ひとつぶの種」も第96号となりました。「ひとつぶの種」は初代多紀校長が校歌から命名されました。

本校の特色である少人数の良さを生かし、子ども一人一人の個性や持ち味を大切にしながら、秘められた才能を引き出し、将来、力強く開花できるようにそれぞれ違う「ひとつぶの種」を大切に育てていきます。

アサガオの種は、発芽すると小さな双葉を大きく広げて太陽の光をたくさん受け、大地に根を張り、本葉を育てていきます。そして、本葉から青空に向かってぐんぐんつるをのばして成長しますが、役目を終えた双葉は、枯れてしまいます。この双葉が私たち大人の役割です。これからも力を合わせて「ひとつぶの種」を大きく育てていきましょう。



平成28年度「学校経営基本方針」についてお知らせします。

＜教育目標＞『志高く夢を抱き、自らの力で生き方を切り拓く児童生徒の育成』

＜校訓＞『切磋琢磨』

＜めざす子ども像＞ ① 主体的に学ぶ子（知） ② 明るく素直で礼儀正しい子（徳）
③ 進んで体を鍛える子（体）

＜3つの約束＞ ① 元気なあいさつ（社会性） ② はいと返事する（対応力）
③ はきものをそろえる（自律性）

＜今年赴任された先生＞を紹介します。

教諭 河原 和美（山口県） 教諭 小林 嵩彦（埼玉県）

教諭 山本 清夏（新潟県） 教諭 永田 伊世（愛知県）

新たに4名の先生が、杭州日本人学校の家族の一員に加わりました。保護者の皆様のご支援をいただきながら、前進してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

